

本日の為替見通し

ポイント

「できない約束をドイツが引き受け、金融市場に厳しい攻撃を浴びてしまったら、欧州は深刻な弱点をさらしてします。この場を借りてその点をはっきりと言いたい」……。メルケル独首相のダボスで開催されている世界フォーラムの開幕演説であり、欧州債務危機の中でドイツに対して対応を強く求める圧力に対する発言である。

先週末には、フィッチがイタリア 2 段階引き下げを含め、スペイン・ベルギー・スロベニア・キプロスを 1 段階、計 5 カ国の格付けの引き下げを発表した。フランスが含まれなかったことで安心したのか、予想通りでユーロショートポジションの買い戻しに忙しかつたのか、それとも、米第 4 四半期 GDP が市場予想の平均より若干少なかったことが、EUR 買いになったのであろうか……。

EURUSD は昨年 12 月 21 日の高値 1.3197 を超え 12 月 12 日(月曜)の 1.32d 台の水準まで上昇した。その前日、12 月 9 日(金曜日)には、EU 首脳会議があり、ESM の増額や開始時期の前倒しを発表したが、その失望感に週明け月曜日からユーロの下落が開始した日でもある。

そして、本日も、その EU 首脳会議が本日 30 日にブリュッセルで開催され、ギリシャ債務交換協議が事前に決着し、ギリシャ第 2 次支援策がされるのか？ EU 財政案を協議し、終了後に記者会見が予定されているが、市場の期待感を裏切らない結果を期待するだけである。

FOMC が超低金利政策の期間延長を決定し、QE2.5 の量的緩和政策ではとの意見が聞かれるが、ECB は 2 月に 3 年物 LTRO(ロング・ターム・リファイナンス・オペ)を、昨年 12 月 20 日に続き実施する。これも事実上の量的緩和策で、通貨安になる傾向が高いとも言われている。

本日は、EU 首脳会議があり、その直前にはドイツ・イタリア・フランス首脳会談を予定しており、その結を注目したい。また、先週金曜日にフィッチがイタリアの格付けを 2 段階引き下げたが、今日は、そのイタリア国債の入札が控えており、先週末の債券と為替市場のように、今日も無視されるのであろうか……。こちらも注目したい。

ユーロ圏では 1 月の業況判断指数、消費者信頼感指数、経済信頼感、鉱工業信頼感、サービス業信頼感が発表され、米国では個人消費支出が発表され、ドイツでは消費者物価指数が発表される。これらも重要で目を離せない。

明日は月末 31 日、そろそろ月末要因にも気をつけなければならない。

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.2980、この線を下限に上昇を続けている。DOPup=1.3312、DOPdn=1.2660。スロー・ストキャスティックは %K=89.77、%D=82.72、上昇トレンドの中で売り変化の兆しがあり、ベースは買われ過ぎゾーン。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 100.21、この線を下限に値を下げている。DOPup=102.84、DOPdn=98.16。スロー・ストキャスティックは %K=81.38、%D=81.34、上昇トレンドの中で売り変化の兆しがあり、ベースは買われすぎゾーン。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 77.20、この線を割り込み下落がしている。DOPup=78.93、DOPdn=76.40。スロー・ストキャスティックは %K=42.11、%D=53.06 で、買いに変化、ベースはニュートラルゾーン。

本日のCFD見通し

ポイント

FOMCで超緩和策の期間延長が決まりドル安の動きの中で、リスク資産の上昇に商品市場も底堅く推移している。イランは核協議に向け国債原子力機関(IAEA)の代表団受け入れを決め、EU向けの原油輸出の停止の検討を始めた。ガルーバ・イラン石油会社総裁は、イランが原油輸出を停止すれば、原油価格は120~150ドルへ上昇すると試算しているが、原油価格はいまのところ安定起動を走っている。最近の値動きは、上昇組、金価格=AUDUSD、安定組、原油価格=USDJPYと面白い関連性が出ている。

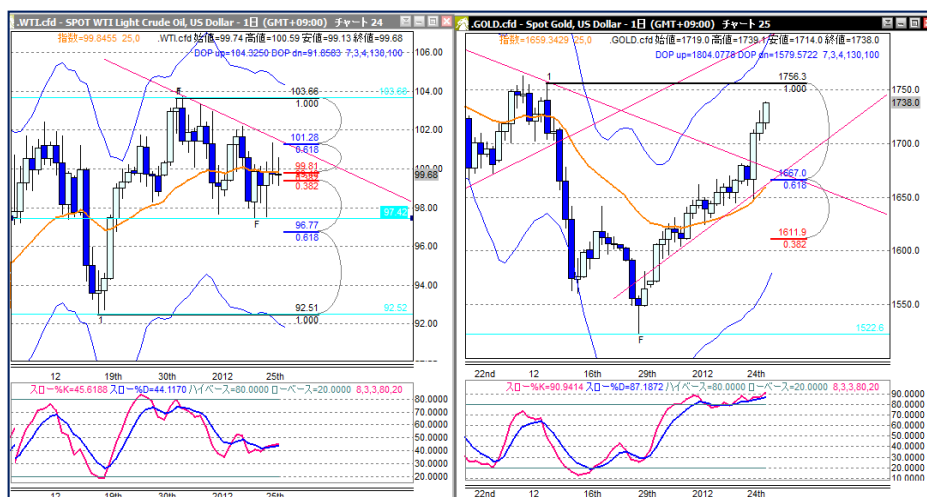
◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは99.85で、この水準は終値では下回っているが、ほぼ連日この水準を中心とした取引で、最近では98.00~102.00のレンジで安定相場が続いている。上値が切り下がり、98がサポートされるペナントが形成され、抜け出した方向に相場が動く圧力が強まっている。上値のポイントは101.28、103.68。下値のポイントは96.77、92.52。

◎Spot.Gold

EMAは1659.34で、この水準を下限に上昇が続いている。かい離幅は大きくなりつつあるが、今のところ相場反転の動きは見られない。上値のポイントは1756.3、1790.21。下値のポイントは1687.0、1611.9。

マーケット・レベル



Spot.WTI(Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25日指数移動平均線は99.85、この線を終値では下回り、これを中心とした取引が続いている。DOPup=104.47、DOPdn=92.01。スロー・ストキャスティックは%K=45.62、%D=44.12で、買いへ変化しているが不透明、ベースニュートラルゾーン。

Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25日指数移行平均線は、1659.34、この線を下限に上昇している。DOPup=1790.21、DOPdn=1565.71。スロー・ストキャスティックは%K=90.94、%D=87.19で、上昇トレンドの継続で相場ではっきりとせず。ベースは買われ過ぎゾーンで継続。

1月30日(月曜日) 注目の経済指標 その他

発言・その他

- ◎イタリア国債入札
- ◎EU首脳会議(EU財政協定、協議終了後に記者会見)
- ◎ドイツ・イタリア・フランス首脳会談

注目の経済指標

- ◎ユーロ圏 1月 業況判断指数、消費者信頼感指数、経済信頼感、鉱工業信頼感、サービス業信頼感
- ◎米 12月 個人所得・個人支出
- ◎独 1月 消費者物価指数

1月30日(月曜) 本日の主な経済指標と発表予定

9:01	GBP 1月 ホームトラック住宅調査=◎前月比予想 前回-0.2%、前年比予想 前回-2.1%
19:00	EUR 1月 業況判断指数=予想-0.25 前回-0.31、消費者信頼感・確定=予想-20.6 前回-20.6、経済信頼感=予想 93.4 前回 93.3、鉱工業信頼感=◎予想-7.2 前回-7.1、サービス業信頼感=予想-1.6 前回-2.1
22:30	USD 12月 個人所得=予想 0.4% 前回 0.1%、個人支出=予想 0.1% 前回 0.1%、PCE デフレーター=前年比予想 前回 2.5%、PCE コア・デフレーター=前月比予想 0.1% 前回 0.1%、前年比予想 1.7% 前回 1.7%
未定	GER 1月 消費者物価指数・速報=前月比予想-0.5% 前回 0.7%、前年比予想 2.0% 前回 2.1%、EU 基準 CPI=前月比予想 -0.4% 前回 0.7%、前年比予想 2.4% 前回 2.3%

先週末(1月27日)の海外市場の動き

米国株価は下落(NY ダウ-74.17-0.58%)、欧州株も下落(独 DAX-27.87-0.43%、英 FTSE-61.75-1.07%)、Spot.Gold は上昇(+18.70+1.09%)、Spot.WTI「Light Crude Oil」は小幅下落(-0.17-0.17%)

◎NZの貿易収支は5カ月ぶりの黒字→ NZD 買いの流れが始まる

◎フィッチ格下げでもユーロは堅調、フィッチはイタリアを2段階、スペイン、ベルギー、スロベニア、キプロスを1段階の格下げを実施した→ EUR 売りが限定的

◎イタリア国債入札は堅調に推移、利回りは12月から大幅低下→ EUR は堅調に推移

◎ギリシャ債務交換交渉の合意が近いとの思惑、レーン欧州委員はギリシャの債務交渉で今後3日間は決定的に重要で月内の合意は極めて近い、パロワン仏財務相はギリシャ債務減免協議 29日までの合意を確認→ EUR は堅調に推移

◎米第4四半期GDPは、前期比年率で2.8%と第3四半期1.8%から大幅に拡大し、1年半ぶりの水準となったが、市場予想より弱い→ 直後のドル買いから、ドル売りへ変化

◎消費者マインドが強まる、ミシガン大学消費者信頼感指数は1年ぶりの高水準→ 直後のドル買いから、ドル売りへ変化

USDJPY

アジア市場は77.48を高値にクロスでの円買いが強く、昨日 NY 市場の安値77.30割れを何度か試し、77.30割れのストップを付け76.90近くまで下落した。欧州市場は、大枠76.95~77.20のレンジから76.90割れのストップを付け売りの流れが続いた。米国市場に入っても、米GDPの発表にも同意は鈍く、76.70割れまで続落、安値圏で終了した。

EURUSD

アジア市場は、前日 NY 市場の続落の流れを受けた売りから始まり、前日欧州・米国市場の安値1.3095を割り込み1.3070台まで値を下げたが、アジア筋の買いが強く1.3120近くまで値を戻し、1.3100を中心にした狭いレンジで取引が続いた。欧州市場に入っても欧州実需筋の大口買いに下げ止まり、大枠1.3080~20のレンジから、イタリア短期国債入札は好調に消化され、レーン欧州委員がギリシャ債務交渉が合意に近いとの発言に、EURJPYの買いもフォローし1.3120を超え1.3160まで上昇し、1.3140近辺での取引が続いた。米国市場に入り、米GDP+ミシガン大学消費者信頼感指数の発表後には1.3090台まで下落、1.3100~40のレンジから、ロンドンフィキシングから、買いの流れが強まり、前日の高値1.3183を超え、1.3233まで続伸し、高値圏で終了した。

AUDUSD

アジア市場は、朝方の1.0640近くを高値に、前日 NY 市場の流れを受け1.0590台まで下落、1.0630近く値を戻し、大枠1.0610~30のレンジで取引が続いた。欧州市場は、中東勢の買いに1.0640台を回復、ギリシャ債務交渉が合意に近いとの思惑を材料に1.0670近くまで上昇した。米国市場は、大枠1.0655~70のレンジから、米経済指標を受けた売り+利食いの売りに1.0590台まで下落、1.0640台まで値を戻し、ロンドンフィキシング後にはEURUSDの上昇に、1.0665近くまで上昇し、高値圏で終了した。

金・原油価格

ガソリン価格が製油所の操業停止やプラント閉鎖で供給減の思惑に昨年8月来の高値に上昇、レーン欧州委員がギリシャ債権者との協議が合意に極めて近いと発言に堅調に推移。背景には FOMC で超低金利の期間延長を決定、事実上の量的緩和策ともたらえられ、フィッチのユーロ圏5カ国に引き下げにも、予想を下回る米第4四半期 GDP 速報値にも売り圧力は限定的。

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、前日米国市場の売りの流れが続き上値は重く、大枠 99.63~00 のレンジで推移。欧州市場は、一時 99.40 近くまで値を下げたが、大口の買いに 100 を超え 100.46 まで上昇、大枠 99.90~100.50 のレンジで推移した。米国市場では、米経済指標の発表に、99.30 割れまで値を下げたが、ガソリン価格の上昇の流れを受け 99.50 以下の買いは強く、再び 100.50 台まで上昇→99.15 近くまで下落、幅の広いレンジで売り買いが交錯するで、99.68 で終了した。

◎Spot.Gold

アジア市場は、一時 1714 まで値を下げたが、大枠 1716~1723.50 のレンジで取引が続いた。欧州市場も、序盤は大枠 1716~19 の狭いレンジから、EURUSD の上昇に 1725 台まで上昇、大枠 1721~25 のレンジで取引が続いた。米国市場に入り、米経済指標の発表に一時 1717 近くまで下落、ロンドンフィクシング後のドル安の流れに 26 日の高値 1731 を超え、1739 台まで続伸、高値圏で終了した。

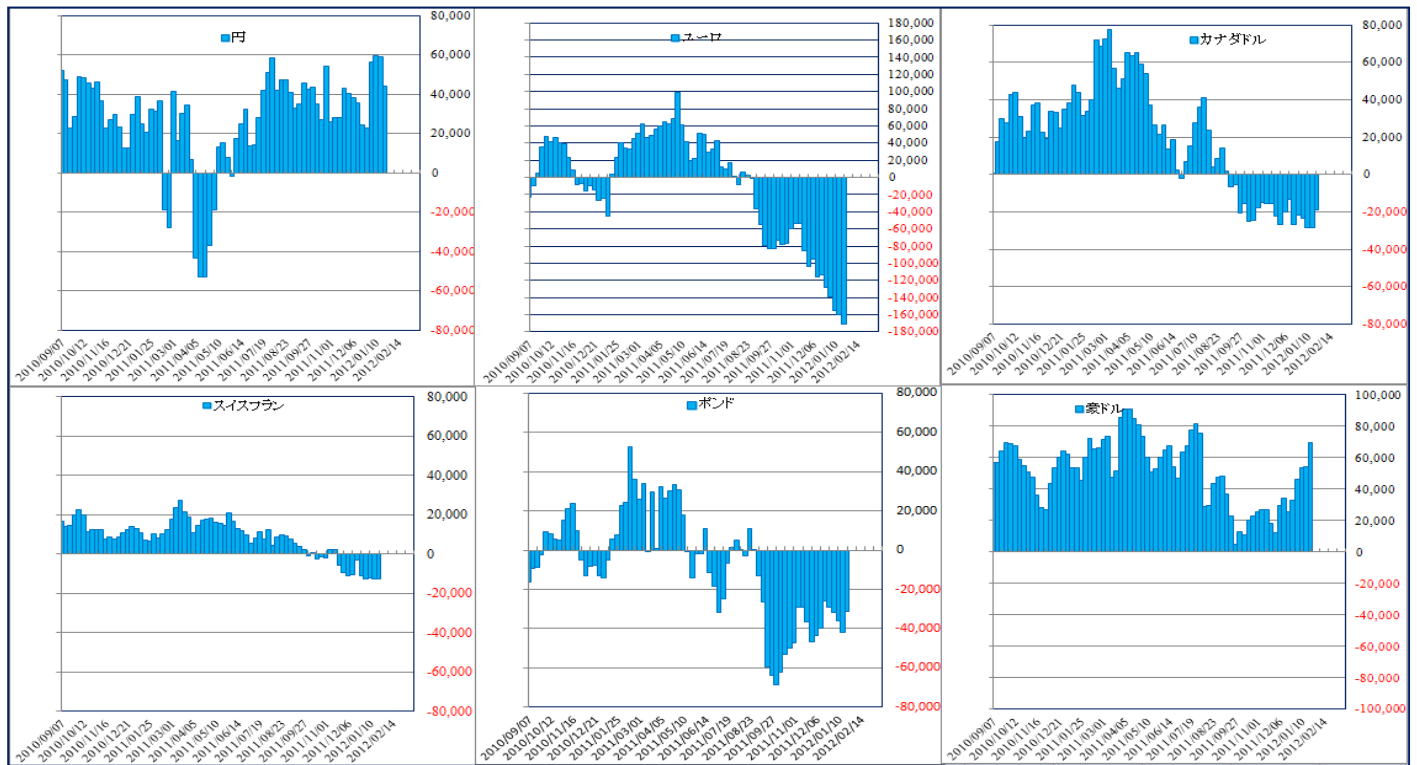
先週末(1月27日)の主な発言・出来事

	欧州関連
	スリエル・ルーベニ氏 = ◎ユーロ圏は穏やかな列車事故のようで、ギリシャだけでなく、他国も支払不能 ◎全ての国がユーロにとどまることはできない ◎ギリシャは今後 12 カ月以内、とポルトガルはもう少し時間がかかるがユーロ圏を離れる可能性がある ◎今後 3~5 年にユーロが崩れる可能性は 50%
	スリエル・ルーベニ氏 = ◎ユーロ圏は今年非常に深刻なリセッションを予想
	パパデモス・ギリシャ首相 = ◎30 日の EU 首脳会議を前に、国内各党指導者と協議
	欧州委員会 = ◎金融取引税の導入に全力で取り組む
	フィッチ・レーティングス = ◎短期的に金融や財政の衝撃にたいして脆弱で、準備通貨としてのユーロの地位の恩恵を十分に感じていないと判断した
	フィッチ・レーティングス = ◎ユーロ圏5カ国を引き下げた ◎イタリアの格付けを「Aプラス」から「A マイナス」に、スペインを「AA マイナス」から「A」に、ベルギーを「AA プラス」から「AA」に、スロベニアを「AA マイナス」から「A」に、キプロスを「BBB」から「BBB マイナス」にそれぞれ引き下げた。アイルランドの格付けは「BBB プラス」に据え置いた。
	バロワン仏財務相 = ◎ギリシャ債務減免協議は 29 日までの合意を確認
	レーン欧州委員 = ◎ギリシャの債務交渉で今後 3 日間は決定的に重要で月内の合意は極めて近い、
	トロイカ報告書草稿 = ◎ギリシャは GDP 比 1%程度 の追加歳出削減が必要 ◎前回の協議で合意した改革の実施が必要
	イタリア国債入札 = ◎2012 年 7 月償還入札、80 億ユーロ発行、利回り 1.969% (12 月 3.251%)、応札倍率 1.346 倍 (12 月 1.69 倍)、2012 年 12 月償還入札、30 億ユーロ、利回り 2.214%、応札倍率 1.821 倍 ◎2014 年 1 月償還ゼロクーポン債、45 億ユーロ発行、利回り 3.76% (12 月 4.85%、昨年 8 月来 の低水準)、応札倍率 1.714%
	ゴンザレスパラモ ECB 専務理事 = ◎ECB は現行の政策金利が下限だと表明はしていない
	ギリシャ関連
	トロイカ匿名の当局者(独シュビゲール) = ◎ギリシャ経済の悪化にさらに資金を必要とし、差額は民間債権者の負担ではうずまらな い ◎第2次支援で 1450 億ユーロ必要とし、2011 年 10 月の合意を 150 億ユーロ上回る
	国際金融協会(IIF) = ◎ユンケル・ユーログループ議長が提案した枠組みで、双方が自主的な債務交換の合意に近い
	ジョイブレ独財務相 = ◎ギリシャ政府は追加支援を期待する前に、支援パッケージの約束を履行する必要がある
	ユンケル・ユーログループ議長 = ◎ギリシャのデフォルトはどんな犠牲を払っても阻止する必要がある
	カプシス・ギリシャ報道官 = ◎民間債権者がギリシャと債務スワップの合意に非常に近づいている
NZD	キー・NZ 首相(WSJ 紙) = ◎投資家が欧州債務危機の影響を受けていない資産を求めている ◎中国を含め NZ 債券には海外投資家の関心を集めている
USD	ダドリーNY 連銀総裁 = ◎米経済は今年減速する可能性が高い ◎経済は下振れリスクを抱えている ◎2011 年第4四半期の成長が 2012 年にも続く可能性は低い ◎最近の改善は一時的な性格で成長の妨げになる大きな障害が存在する
USD	ガイトナー米財務長官 = ◎米国の経済成長は 2~3% が現実的 ◎脅威はイランとユーロ圏
NZD	ボラードNZ 中銀総裁 = ◎市場が今後 1 年間政策金利の上昇も低下も予想していないことに満足 ◎ギリシャはユーロ圏で最もデフォルトリスクが高い ◎欧州危機の拡大はアジア経済成長の鈍化を意味する
GBP	マイルズ英中銀政策委員 = ◎量的緩和の拡大は決定したわけではない
CHF	シュナイダーマン・スイス経済相 = ◎スイスの対ユーロでの過大評価でスイス経済を圧迫している ◎購買部評価では EURCHF1.35 ~1.4 前後と判断

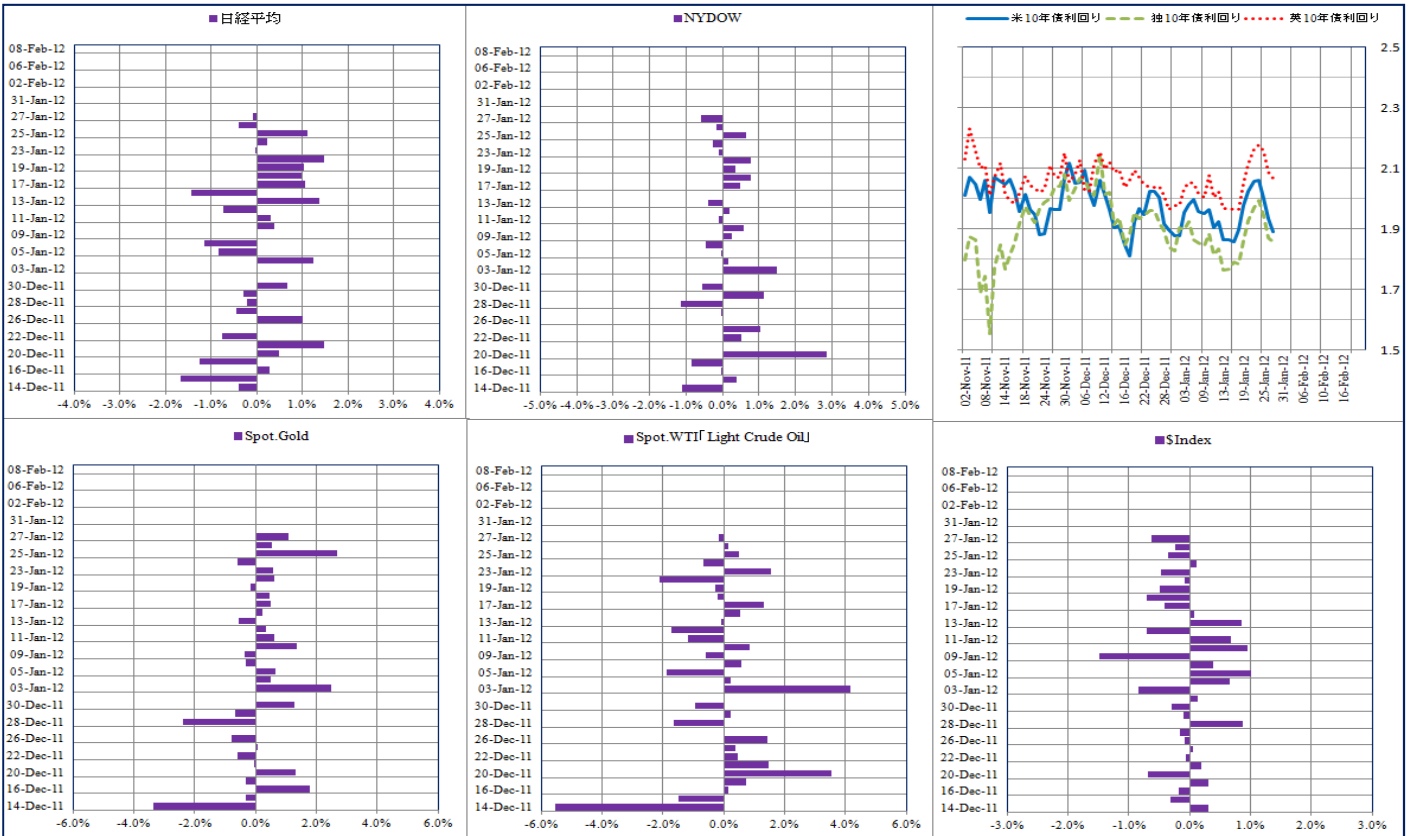
先週末(1月23日)の経済指標と結果

6:45	NZD 12月 貿易収支=3.38億 NZドル(予想-0.5億 NZドル 前回-3.07←-3.08億 NZドル)
8:30	JPY 1月 東京都消費者物価指数=前年比-0.3%(予想-0.4% 前回-0.4%)、除生鮮=前年比-0.4%(予想-0.3% 前回-0.3%)
8:30	JPY 12月 全国消費者物価指数=前年比-0.2%(予想-0.2% 前回-0.5%)、除生鮮=前年比-0.1%(予想-0.1% 前回-0.2%)
17:00	CHF 1月 KOF スイス先行指数=-0.17(予想-0.1 前回 0.01)
22:30	USD 第4四半期 GDP=前期比年率2.8%(予想3.0% 第3四半期1.8% 第2四半期2011年1.7%)、個人消費支出=2.0%(予想2.4% 第3四半期1.7% 第2四半期0.7% 2011年2.2%)、個人消費支出(PCE)価格指数=前期比0.7%(第3四半期2.3% 第2四半期3.3% 2011年2.4%)、コアPCE価格指数=前期比1.1%(第3四半期2.1% 第2四半期2.3% 2011年1.4%)、デフレーター=前期比0.4%(第3四半期2.6% 第2四半期2.6% 2011年2.1%)
22:30	USD ミシガン大学消費者信頼感・確報=75.0(予想74.0 1月速報74.0 12月69.9)、景気現況指数=84.2(1月速報82.6 12月79.6)、消費者期待指数=69.1(1月68.4 12月63.6)

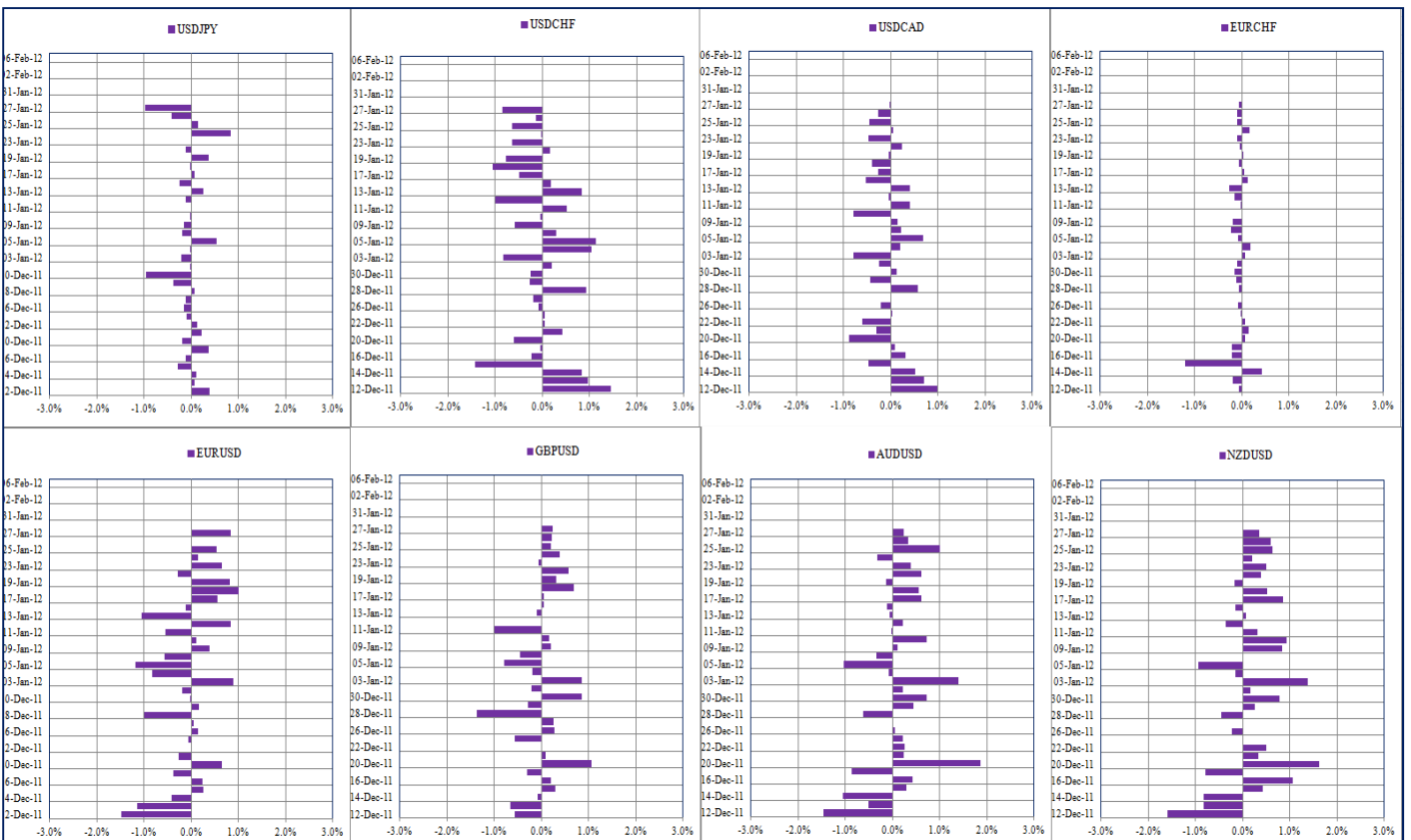
CFTC 発表の IMM 通貨先物の取り組み(1月24日まで発表)



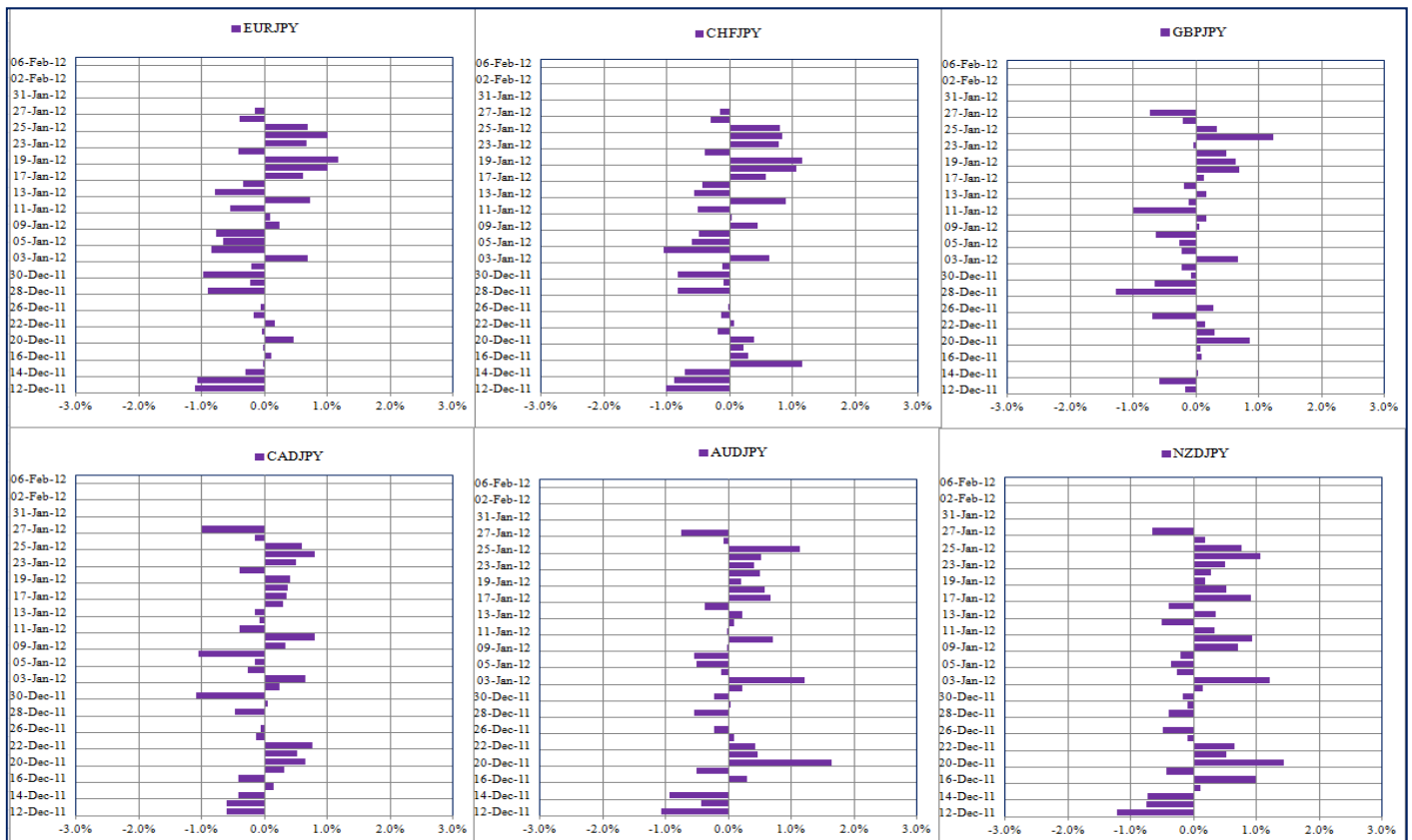
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Indexの(Daily変動率)、10年債利回りのDaily推移と比較



主要通貨のDaily変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011